

# 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070701711		
法人名	株式会社 深田商店		
事業所名	八幡西ケアセンター 和が家		
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区御開3丁目9-53 (電話) 093-601-3503		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月15日	評価確定日	平成21年11月24日

【情報提供票より】(平成21年9月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算15人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(140,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(315,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1500	円	

(4) 利用者の概要 (9月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83,8 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まつもと内科クリニック・太平メディカルケア病院・東筑病院・福田歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な広さを持つ本城運動公園に近接する閑静な住宅街の中に、「和が家」はある。このホームのある御開地区は、地域交流会の活発な活動があり、子供会・老人会・神社総代・水利組合・社会福祉協議会・市民センター職員など、多様なメンバー構成によって開催されている。その中で「和が家」はグループホームとしての認識を高め、この地域を更に住みやすい場所にしていくと地域の方々を支えられながら、地域に根ざした活動となるよう日々取り組んでいる。入居者の方々を中心として、家族・地域住民・行政職員・職員が、住みなれた地域の同じ「和」の中で、支え、支えられる関係を大切にしており、入居者の方々にとって、今何が必要なのか常に考えながら、職員が一丸となり日々のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題として指摘のあった、重度化や終末期に向けての方針の共有について、「看取り指針」を作成し、家族・関係者により方針を共有し、また運営推進会議の中でも説明が行なわれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を作成する過程において、日々のケアを再認識する機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ホームからは行事報告・ボランティア導入・栄養士からの報告(主治医との連携)などが説明されている。地域からは行事の案内などが行われており、家族を交えて活発な意見交換が行われている。特に家族の参加は多く、また知見者として近隣施設の職員も参加しており、率直な意見や質問が出されるなど有意義な開催となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	年一回、家族会を開催している。家族とのコミュニケーションの機会を大切に、率直な意見を求めている。運営推進会議においても、活発な意見交換がなされ、有意義な開催となっており、意見や要望があった場合には、記録に残し運営に反映させるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	今まで一生懸命地域との連携を作るために取り組まれてきており、地域運動会、八幡神社参拝など入居者とともにいろんな活動ができるようになった。2階にホームがあるので住民が気軽に立ち寄りということは民家に比べると難しいと考えているが、御開自治区の一員としていろんな行事を通じての相互交流ができるようになっていく。散歩をしてお花を分けてもらったりするうれしい関係がある。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人として「高齢者が地域でいつまでも和やかに安心して暮らせるために必要な社会福祉事業」を理念として掲げており、ユニット毎に「のんびりゆっくり居心地よくつるげる家庭」(もも)・「元気で明るく楽しいわが家、いつも笑顔で和気あいあい、安らぎ溢れる安らぎホーム」(ゆり)と基本方針を作り上げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	玄関や休憩室に掲示している。入居者・職員により手作りのボードを作成されており、フロアに掲示している。毎朝のミーティングで理念を唱和し、一日が始まる。カンファレンス・勉強会でも理念について話し合いを行ない、浸透に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	御開自治区での活動を行っており、子供会・老人会・社会福祉協議会・市民センター職員・水利組合・神社総代など、多様なメンバー構成にて開催されている。地域交流会・懇談会に参加している。その中でホームの認識を高め、相互交流へとつながっている。地域の運動会では福祉施設用のテントが張られており、地域の一員として参加している。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価の作成にあたり、あらためて気づきの合った項目もあり、振り返りの機会として有効に活用している。外部評価を、第三者の意見を聞く機会として捉え、運営推進会議の中で議題として取り上げたり、話し合いの場を設け、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	ホームからは行事報告・ボランティア導入・栄養士からの報告(主治医との連携)などが説明されている。地域からは行事の案内などが行われており、家族を交えて活発な意見交換が行われている。特に家族の参加は多く、知見者として近隣施設の職員も参加しており、率直な意見や質問が出されており有意義な開催となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## 八幡西ケアセンター 和が家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	毎月、介護相談員の来訪を受け、その報告を介護計画に反映させることもある。市町村担当者や包括支援センター職員より、情報提供を受けたり助言を得ており、運営に反映させるよう努めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、成年後見制度を活用している方がおり、研修を実施し、職員への周知を図っている。今後も継続して学ぶ機会を確保し、知識を深めていきたいと考えている。基本的には法人として対応しており、地域へ向けての情報発信にも取り組む意向がある。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月の請求時には、職員からの手紙や写真、金銭出納帳の写し・領収書を同封し、暮らしの状況を報告している。家族来訪時には、近況報告や職員の異動等について報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	年一回、家族会を開催している。家族とのコミュニケーションの機会を大切に、率直な意見を求めている。運営推進会議においても、活発な意見交換がなされ、有意義な開催となっており、意見や要望があった場合には、記録に残し運営に反映させるよう努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	基本的には異動は行っていないが、退職者が続いた時期もあり、やむを得ずユニット間の異動が行われた時期もあった。定期的な親睦会や日々の交流を大切に、ストレス軽減に配慮し、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢・性別等による排除は行なっていない。各年代の職員が勤務しており、それぞれの得意分野を活かせるよう配慮している。資格取得に向けても、勤務調整等に配慮し、サポートする体制づくりに取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## 八幡西ケアセンター 和が家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	職員採用時の研修において、人権教育が行なわれている。毎月のカンファレンスの中で、高齢者虐待防止や身体拘束について議題として取り上げ、理解を深め、日々のケアの確認を行なっている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	行政主催の研修には必ず参加するようし、伝達研修を実施している。この一年間は認知症ケアに重点をおき、毎月勉強会を実施している。職員は知識を深めていく事に意欲的であり、今後は年間計画の中で効率的な研修実施にも期待したい。		外部研修への参加や、この1年間の認知症ケアへの取り組みが確認できる。今後は職員の経験等に応じた効果的な育成となるよう、年間計画の中に研修を位置づけていくことにも期待したい。また職員の役割分担を明確にすることで、自信や責任感、モチベーションの高まり等につなげて欲しい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近隣福祉施設との交流により、運営推進会議への参加や情報交換の機会がある。法人内の他事業所との連携により、「看取りケア」についての研修に職員を派遣している。包括支援センターとの連携により、地域におけるネットワークの構築に向けた動きもあり、今後の積極的な働きかけにより、リーダーシップを発揮される事を期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	体験入居については、3日～1週間の対応が行なわれている。自宅訪問や見学を実施しながら、徐々に雰囲気馴染んでもらえるよう取り組んでいる。家族にも協力してもらいながら、安心して入居できるよう、柔軟に対応している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	センター方式を活用しながら、生活歴やライフスタイルの把握に努め、本人を理解する事で関係性を深めている。楽しいと思える事を知り、ともに楽しみながら同じ時間を過ごしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			



## 八幡西ケアセンター 和が家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用し、生活歴や習慣、思いや意向の把握に努めている。日々の暮らしの中からも、一人ひとりの希望3ヶ月に1回確認し、全職員のかかわりの中で検討している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者や家族の意向を大切にしたい介護計画が作成されており、ケアの内容はその思いを中心とし、また認知症ケアを重視した内容となっている。医師・栄養士等の専門的アドバイスも参考にしながら、計画に反映させている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月に1回の見直しが行われており、モニタリングを毎月実施している。モニタリング表にケアマネ・ジャーの意見及びミーティングでの意見が記載されており、月に1回の話し合いを有効に利用している。身体状況に変化があったときにはその都度見直しを行うよう取り組んでいる。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	希望に応じて受診支援を行い、家族の負担軽減に努めている。法人としての連携を活かし、専門的なアドバイスやマンパワーによる柔軟な支援が行われている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者・家族の意向によるかかりつけ医への受診を大切にしている。基本的には家族による対応となるが、状況により受診支援を行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

八幡西ケアセンター 和が家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	看取りの方針を作成し、家族の同意を得ており、運営推進会議においても説明を行なっている。同法人の事業所へ職員を派遣し、研修も行なわれている。家族との話し合いを重ね、医療関係者・職員による方針の共有が図られている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシーの確保については、採用時の研修やカンファレンスにおいて周知徹底を図っている。記録等の個人情報についての管理・保管についても充分配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一日の基本的なスケジュールはあるが、体調や意向にあわせて柔軟に対応しており、業務優先とならないように努めている。限られた人員配置の中で、出来る限り一人ひとりの要望に応えていきたいと考えている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	洗米や食器洗い・食器拭きなどを職員とともにし、会話を楽しみながら一緒に食事している。日曜日やおやつ作り際には、職員とともに調理を楽しむ機会も確保している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	隔日での入浴を基本としているが、状況や希望により柔軟に対応している。ゆとりある入浴体制を確保しており、大切なコミュニケーションの時間として、個々のペースでリラックスできるよう支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## 八幡西ケアセンター 和が家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	寿司屋で働いていた方は米とぎを役割とし、教師を務めていた方は、漢字や数字ゲーム等を楽しんでいる。「男は台所に入ってはいけない」という方もおり、後片付けや洗い物を手伝ってくれる。生活歴や趣味の把握を、役割りづくりや楽しみごとの支援につなげ、ともにかかわりながら継続して行なえるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候や状況を考慮し、近隣の本城陸上競技場等への散歩に出掛けているが、身体機能の低下により、季節感を味わえる場所や馴染みの場所等へのドライブが中心となってきている。現状として、新型インフルエンザの流行により外出を控え、室内行事の充実により対応している。下肢筋力の低下や精神的な影響への配慮をお願いします。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	フロア入り口は施錠されておらず、ユニット間も自由に行き来できる。一階入り口はオートロックとなっており、モニターを設置している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	災害対策マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。地域住民との合同訓練の実績もあり、避難経路を確認しながら実践的な訓練が行なわれている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	医師や法人内の管理栄養士との連携により、食事摂取量や栄養バランス等について、一人ひとりにあわせた個別の支援が行われている。食事・水分摂取量を記録し、また毎月体重測定を行ないながら健康管理に役立てている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

## 八幡西ケアセンター 和が家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり	入居者と職員による手作り作品や行事の写真が飾られており、季節感を醸し出している。広いベランダには洗濯物を干したり、時には日光浴を楽しむ事もある。職員は、空気の流れや温度・湿度に気を配り、心地良い空間となるよう日々努めている。各所にソファやベンチ等が配置され、それぞれがつるげる場所を確保している。		
	83	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
		居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には大きなクローゼットが設置されており、自宅からは使い慣れた家具が持ち込まれ、また家族からの手紙や写真などが飾られており、居心地のよさに配慮した空間づくりがなされている。		
33	85	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			